

課題情報シート

課題名：	近江八幡市旧市街地の町屋再生計画		
施設名：	近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	住居環境科
課題の区分：	総合制作実習	課題の形態：	調査・設計

課題の制作・開発目的

(1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

安全衛生、建築計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規、建築設計実習Ⅰ・Ⅱ

(2) 課題に取り組む推奨段階

建築設計実習Ⅱ終了後

(3) 課題によって養成する知識、技能・技術

課題を通して、既存建物の調査方法と木造住宅の再生計画の実践力を身につけます。

(4) 課題実習の時間と人数

人数：1名（家屋調査は1年生やゼミ生4名で実施）

時間：324時間

近江八幡旧市街地には伝統建築物として指定されていない建物にも古い町家が残っています。また、その町家が使われずに廃墟となっている例も多々あります。古い町並みなため、町家を取り壊すには忍びないとする家主は借主を探しています。逆に、最近では一部の若い人たちの間で、エコライフ・スローライフの風潮があり、その中で町家を店舗や住まいとして借りたいと考えている人がいます。そこで、家主と借主との橋渡しをしている「おうみはちまん町家再生ネットワーク」と官学連携事業の一環として連携し調査を行い、その中で再生可能な物件を選び再生プランを考えることにしました。

課題の成果概要



図1 調査平面図

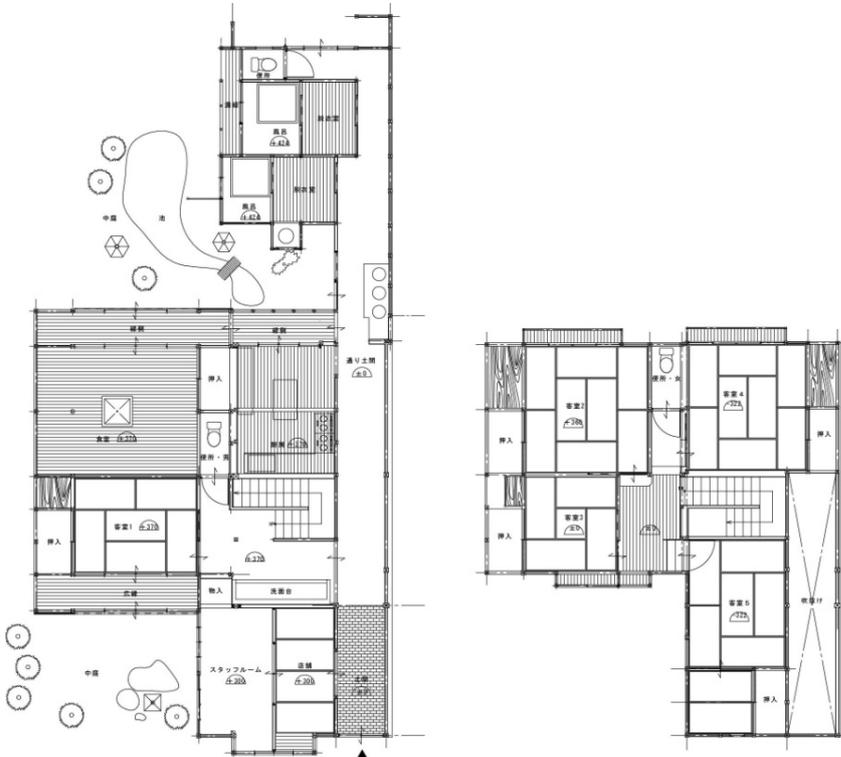


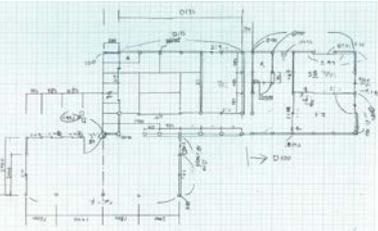
図2 再生計画平面図

今回の課題は、町家の再生計画であり、町家を細部まで調査した上で再生計画を立てることにしました。外観に関しては、旧市街地の景観を壊さないよう大きな変更点は加えず、千枚格子を追加する程度としました。一方、内観に関しては建築基準法に合うように通路幅、階段については、幅、蹴上位置をそれぞれ変更しました。旅館業法では、旅館は5室以上の客室が必要となり、客室は5室設けることにしました。庭を眺められる風呂に関しては男女を分けるため2つ設けました。食堂には外国人旅行者が訪れた時に日本を感じてもらえるように囲炉裏を設け、食堂へ向かう動線は、土間を通り縁側を通るという遠回りの動線にすることでより日本の伝統建築を感じてもらえるようにしました。

建築基準法のなかった時代に作られた建物を用途変更して、現在の建築基準法に適合するように設計することの難しさを学生自身が学んだ意義は大きいと考えます。

課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

官学連携事業の一環として、空き町屋所有者と空き町屋活用希望者を結ぶ仕組みとして町屋情報バンクの運営を「おうみはちまん町屋再生ネットワーク」が行い、物件調査を平成22年度は「間の会」が担当する15件の内3件を町屋再生計画という本総合制作実習のテーマとしました、築100年近い古い町屋を調査することにより、調査方法や町屋の構造や平面計画を知ることができます。さらに調査物件を元に再生計画とし現代の建築基準法に合致したプランの作成をさせました。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<p>○調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家屋調査方法 ・記録 ・図面起こし  <p>○計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町屋再生の計画 	<p>◇調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地にて 1/50 のラフ図面を描きます（内法寸法で測り、建具の種類などを記入） ・部屋の4方の写真を撮ります ・1/50のラフ図面や写真を基に1/100のCAD図面にします ・3件の調査を実施し調査方法を理解したのち、N邸の細部調査を実施 <p>◇計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町屋の構造や特徴の理解 ・再生計画の用途決定 ・法規チェック ・コンセプトの決定 ・プランニング 	<p>●調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査の前に第一法規出版「民家のみかた調べ方」を参考にしラフ図面の描き方を指導  <ul style="list-style-type: none"> ・現地にて実測の手順や機器の使い方を指導します <p>●計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生後の用途を何にすればよいか、近江八幡市について産業や人口などを調べさせます

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
○設計 ・合計 10 枚 (A1) の作成 ・パースの作成 ・S=1/50 の模型の製作	◇設計 ・JW-CAD を使用し平面詳細図、矩計図、展開図など合計 10 枚 (A1) の作成 ・グーグルスケッチアップによるパースの作成 ・S=1/50 の模型の製作	●設計 ・計画したプランで建築基準法に合致する壁量計算など再度チェックさせます ・矩計図や平面詳細図の描き方の指導をします ・グーグルスケッチアップの操作方法を指導します ・模型材料の選定や作り方を指導します ・プレゼンテーション技法を指導します。

<調査必要道具>

コンベックス、巻尺、光波距離測定器、LEDヘッドライト、ライト、ランタン、傾斜計、方眼用紙、スケッチ用ボード、筆記用具、軍足、デジタルカメラ等

<所見>

古い町屋の調査、再生計画の作成をとおり、町屋に関する知識、調査方法を習得し、学生自らが考え行動する課題としては有効だったと考えます。築 100 年近い町屋になると尺モジュールで建てられている部分もあるが、増改築を繰り返す中で、いわゆる間くずれのモジュールいたるところに見受けられました。また、柱の太さ一つにしても、現在では 3.5 寸や 4 寸と決まった太さの柱が使われますが、当時は製材技術があまり発達していなかったため、真壁の柱の太さが 1 本 1 本異なり、また、解体した構造材を再利用しているものもありました。

空き町屋の調査を学生らが行うことにより今後増えるであろう、リフォームやリノベーションの調査方法学ぶことができ良い経験になったと思われます。また、再生ネットワークの活動に当校の学生らが参加することにより、地域貢献の手伝いが少しはできたのではないかと考えます。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校
 住所 : 滋賀県近江八幡市古川町 1414

電話番号 : 0748-31-2250 (代表)
 施設 Web アドレス : <http://www.ehdo.go.jp/shiga/shiga-pc/>